

この25年を振り返って

本誌は絵本を真ん中に、親子で楽しい時間を過ごしてほしい、子どもたちに心の栄養となる本を読んであげてほしいと願い、編集してきました。25年間、守ってきたのは良質な本をご紹介しますこと。だからこそ、1号1号が宝もののようです。



特集

子どもたちに
本を手渡す

私たちはたまたま情報発信という形でしたが、ほかに子どもたちに本を手渡す活動をされている方たちが大勢います。それは近所の文庫だったり、駅前の書店だったり、町の図書館だったり。さまざまなアプローチで、いつの日か大きな花が咲きますようにと願って子どもたちの心にそっと種をまいています。そんな方たちをご紹介します。



著作権保護コンテンツ



監修本
『りんごの棚と読書バリアフリー』(全3巻)
『1 自分にあった読み方ってなんだろう?』
『2 読みやすい本ってなんだろう?』
『3 読みやすい本を広めよう!』
各3,740円(フレール館)

問い合わせ先
ringo@peopledesign.or.jp
活動開始年
2020年
(NPO法人ピープルデザイン研究所は2012年～)



公式サイト▶

「読むこと」は単なる読書だけではなく、学びや暮らしに必要な情報入手にもつながります。本や情報にたどりつきにくいことを、その人だけの課題にせず、学校や公共図書館の「りんごの棚」を起点に、読む方法や環境を整えることは、自分に合った方法で読む力も育みます。年齢や言葉の違いにかかわらず、誰もがアクセシブルな本に出合える日常を、読者のみなさんにも関心を寄せていただきながら、ともにつくっていききたいと思っています。

(りんごプロジェクト・ナビゲーター 古市理代さん)

▼今後の展望
「本を読む」方法はひとつではありません。大きな文字の本、点字つき絵本、布の絵本、やさしい言葉で読めるしーブック、音声で読める本など、入り口はさまざまです。りんごプロジェクトでは、子どもたちが自分に合った読み方に出合えるよう、学校・図書館などで出張授業やアクセシブルな本の体験会を行い、「りんごの棚」を通して多様な読み方にふれ、違いを自然に受けとめる機会もつくりながら、読書バリアフリーの取り組みを広げていきます。

りんごプロジェクト NPO法人ピープルデザイン研究所

令和7年度「バリアフリーユニバーサルデザイン推進功労者表彰」
「内閣府特命担当大臣表彰優良賞」受賞



所在地
東京店 〒180-0004
東京都武蔵野市
吉祥寺本町2-15-6
大阪店 〒564-0062
大阪府吹田市
垂水町3-34-24
開店年
1976年(大阪店は1991年)



子どもに手渡したい1冊



『おやすみ、ぼく』
文/アンドリュウ・ダッド
絵/エマ・クエイ
訳/落合恵子
1,980円
(クレヨンハウス)

(スタッフ 野村陽子さん)

作家・落合恵子が主宰するクレヨンハウス。1976年東京・神宮前に設立後、北青山(表参道)、吉祥寺と移転し、今年50周年。東京店と大阪店とオンラインストアの3店を運営し、作家と読者をつなぐ月例の講演会「子どもの本の学校」は現在35期、「原発とエネルギーを学ぶ朝の教室」は現在177回を迎えています。絵本や読みものはスタッフが必ず目を通したあと「新刊会議」を開催。お店に置く本や、絵本の定期便「ブッククラブ」で配本する書籍を、スタッフ間で選書する方式をとっています。全社で平和や人権などをテーマとしてきました。なお、クレヨンハウスの姉妹会社・本の卸業「子どもの文化普及協会」は、「この本読んで！」を全国2500の独立系会員書店に配本してきました。



わいわい文庫
2015 Ver.BLUE
『ももたろう』
文/浜なつ子
絵/よこやまようへい



マルチメディア
DAISY図書
「わいわい文庫2026」

所在地
〒107-6431
東京都港区赤坂2-17-22 赤坂トラストタワー 24F
活動開始年
電子図書普及事業 2010年
(伊藤忠記念財団は1974年～)

▼今後の展望
15年以上にわたり「わいわい文庫」の製作・寄贈を続け、作品数は971となりました。この間、「読書バリアフリー法」の制定やタブレット端末の普及など、読書を取り巻く環境は大きく変化しました。しかし、障害のある子どもたちにとって読書は身近とはいえない状況です。今後も、ひとりでも多くの子どもたちが、読む喜びや本を読み通した達成感を得られるよう取り組み、「わいわい文庫」もより使いやすい形へと発展させてまいります。

(電子図書普及事業部 山根英子さん)

「すべての子どもたちに読書の喜びを」をテーマに、「子ども文庫助成事業」と「電子図書普及事業」を行っています。「電子図書普及事業」では、障害があるために紙の本で読むことに困難さのある子どもたちに向けて児童書を電子化し、「わいわい文庫」として全国の学校や図書館などへ寄贈しています。また、「読書バリアフリー研究会」を開催し、読みの困難さへの理解と支援のあり方について学ぶ機会を提供しています。

公益財団法人 伊藤忠記念財団



所在地
〒390-0877
長野県松本市沢村3-4-41
開店年
1980年



子どもに手渡したい1冊



『ちいさいおうち』
文・絵/バージニア・リー・パートン
訳/いしいももこ
1,870円(岩波書店)

今年で47年目に入った当店は、「子どもの文化情報センター」と名づけたことから、開店当初から地域のみなさまの子どもたちの文化の交流の場になればいいなという願いを持って仕事をしてきました。おかげさまで、45年続く読書会のメンバーや、全県を対象にした吉田新一さんや小沢俊夫さんの連続講座と一緒に学んだ仲間とは、深い絆でむすばれ一緒に子どもたちの活動を続けています。2代にわたり、ブッククラブを購読してくる親子も当店の宝ものです。

(副店長 越高令子さん)

著作権保護コンテンツ

『しょくばん バス』

作／チャオ・ワンユエ
訳／のざかえつこ
1,650円(岩崎書店)



春が近づき、明日は森のお祭りです。たくさんのパンを焼いたピーパーさんは、しょくばんバスに乗せて運ぶことにしました。あちこちで子どもたちを乗せて森をめざしますが、途中でバスが壊れてしまいました。

『わたし ここに います』

作・絵／ユン・ヘジョン
訳／吉川 風
1,870円(岩崎書店)



「わたし」は、世の中にくらでもある普通の石です。でも、「わたし」ってすてき。自分でそう思えばいいのです。誰かのお昼寝の枕や椅子になったり。今いるところが好きですが、そこにいられなくなってしまいました。

『ぼくらを からないで』

作／エーヴァ・リンドストロム
訳／よこのなな
1,430円(岩波書店)



森で狩りをすることに森の大勢の動物が賛成します。でも、リスとウサギは反対です。静かに暮らしたい。木の実集めを邪魔されたくない。おびえながらも勇気を持ち続ける小さなものたちの物語です。

『わらうことば あそぶことば』

ことば／内田麟太郎
絵／高畠 純
1,650円(絵本館)



クマに囲まれた人、灰色のページから舞い降りる雪、傘の上に落ちてくるたくさんの雨。それらが絵と文字で表現されています。言葉を眺め、絵を読みながら詩の世界を味わいましょう。

『発達ゆっくりさん せいかつ おうえん えほん』

監修／千先園子
企画・絵／川原瑞丸
文／逸見チエコ
2,090円(大泉書店)



発達のゆっくりな子の、生活の中で必要なことが場面ごとに描かれています。「だいじなことば」の章では、あいさつ・困ったときの対処法など。生活の基本ルールを絵にして、やさしく教えてくれます。

『らっこ もじゃもじゃっこ』

文／かんちくたかこ
写真／高久 至
1,430円(アリス館)



海の人気者、野生のラッコのさまざまな姿が詰まった写真絵本。ラッコたちはいつも海の上で気持ちよさそうにぶかりんこ。母さんラッコに抱っこしてもらって、たかいたかい。おなかがいいたら貝をとって上手に食べます。

『ツイアビと パバラギ』

文／松田悠八
絵／こうのルル
1,980円(イメージネーション・プラス)



ツイアビたちの住む小さな島に、文明の国からパバラギがやってきました。いろんなことを知っているパバラギは、たくさんのことを教えてくれましたが……。1981年発表の大ベストセラー本『パバラギ』が絵本になりました。

『りんちゃんの すてきな ぼうし』

作／タカタカヲリ
1,980円(イメージネーション・プラス)



りんちゃんはお気に入りの帽子をかぶってお散歩に出かけます。ところが、風のいたずらで帽子は高い木の枝に引っかかってしまいました。泣いているとクマの子が飛びだしてきて、木に登ってとってくれました。

『1が かけたよ』

作／ウー・ヤーナン
絵／リウ・ロンシャ
訳／木坂 涼
1,650円(岩崎書店)



クマ先生が言いました。「数字の1の勉強をします。書いてみましょう」。縦だったり、横だったり、大きかったり、小さかったり、くねくねだったり……。いろんな「いち」がそろいました。それぞれ誰が書いたか、わかりますか？

『おばけの そちから』

文／内田麟太郎
絵／山本 孝
1,540円(岩崎書店)



おばけが眠る夜明け前、さむらいたちが夜の世界を奪いに来ました。大砲どかーん。えんまも鬼も吹き飛ばされ、おばけの子どもたちは追いつめられます。このまま、さむらいたちにつかまってしまうのでしょうか。

『ぼくらは物語ハンター』

作／バーバラ・リード
訳／千葉茂樹
1,870円(あすなる書房)



ぼくらは動物を追うハンターです。草や木、魚や鳥や動物たち、マンモスとともに生きています。ある日、洞窟の中に描かれた絵を見つけました。先人たちのさまざまな物語です。やがて、ぼくらも歴史の一部になるでしょう。

『ちいさなぼうけん1 いちばへ いこう』

作／タビサ・ペイジ
訳／よいいかずみ
1,980円(アチエロ)



キツネは、遠くからやってくるフクロウに、とっておきのサラダをつくるために市場へ出かけます。買うのは何かな？ リスとネズミも手伝います。巻末のイラストで、動物たちが出てきた場所を探すのも楽しいですよ。

『オレはカナヘビ オレの庭』

文・写真／松橋利光
1,870円(アリス館)



子どものころから、大のカナヘビ好きの著者は、カナヘビが好む庭をつくってしまいました。爬虫類の仲間であるトカゲやヤモリもすんでいる庭の魅力と生態を、カナヘビの視点から案内してくれます。

『たまごっこ』

文／ふるやかおる
絵／あずみ虫
1,430円(アリス館)



ママとふたりで、卵ごっこをします。ぼくが体を丸めて卵になると、ママが抱っこしてあたためてくれます。もう一回、もう一回。何度も卵になり、ヒヨコや恐竜が生まれてきました。

『ベッシーちゃん』

作／石川えりこ
2,090円(アリス館)



ベッシーちゃんは、カナダのバンクーバーで生まれました。楽しく暮らしていましたが、日本で教育を受けるためにひとりて来日し、二度と戻ることはありませんでした。作者の祖母の体験談も、日本の歴史の1ページです。

もう
読んだ？
新刊
100!!

2026年3～6月に発売された新刊絵本の中から、読みきかせにもおすすめの100冊を選びました。子どもたちとすてきな時間を過ごしてください。

※出版社五十音順 ※㊦は右開きの本。㊧は縦開きの本。㊨は上開きの本。
㊩マークは乳幼児から、㊪は中・高校生も楽しめる本です。

定期購読者限定プレゼント

新刊絵本プレゼントの詳細は、このページの下欄をご覧ください。

『ギョウザくんと シュウマイちゃん』

作／村上しいこ
絵／はしもとえつよ
1,760円(あかね書房)



ギョウザくんは羽根つきギョウザに、シュウマイちゃんはエビシュウマイになりたいのです。ふたりは願いをかなえるために、まんがく神社にお参りに行くことにしました。神社はお祭りのまつ最中。珍道中が始まります。

『せかいいち クールな カラス』

文・絵／コーリー・R・テイバー
訳／藤井 隆
1,815円(あさ出版)



カラスは、電線のいつもの場所にじっととり、友だちが誘っても、声をかけても、返事はそっけない「カーー！」だけでした。でも、それには大きな秘密があったのです。ほら、電話が鳴って、カラスが動きだしました。

『ちいさな紳士バトルビー』

作／マット・フェラン
訳／椎名かおる
1,870円(あすなる書房)



バトルビーは、「ぼくは、ちょっと」が口ぐせです。みんなの前で話するときも、音楽の時間も、休み時間に遊ぶときでさえもです。お絵かきの時間、バトルビーはやつと言えました。それはどんな言葉だったでしょう。

※JPIC 直販の定期購読の方に、抽選で新刊絵本100冊から1冊をプレゼントします。巻末のアンケートハガキまたはホームページのアンケートフォームから応募してください。

著作権保護コンテンツ

プログラム (各 10～15分) 小学校高学年

10月 テーマ：のぞいてみよう 動物の世界

①『どうぶつはいくあそび』より 3句ほど選んで

作／きしだえりこ
絵／かたやまけん
1,540円(のら書店)
動物たちのゆかいな俳句を紹介。どの動物が詠んだ句かあてっこするのでもいいでしょう。



②『いっぽんのきのえだ』

作／コンスタンス・アンダーソン
訳／千葉茂樹
1,760円(ほるぷ出版)
1本の木の枝を、動物たちはどのように使うのでしょうか。驚きと発見の連続！動物の生態への興味が広がります。



③『こんな しっぽで なに するの?』

作／スティーブ・ジェイキンズ、ロビン・ペイジ
訳／佐藤見果夢
1,650円(評論社)
鼻や耳、しっぽや目など動物の体の一部を見て、何の動物かわかるかな？さらに、いかに体を使うのか、その行動を想像してみましょう。



11月 テーマ：家と暮らし そして時間

①『のうじょうのいえ』

作／ソフィー・ブラッコール
訳／山口文生
2,200円(評論社)
古い農場に建つ廃屋に残されたものを拾い集め、「過去」に住み暮らしした家族の歴史を紡いだ物語。作者の思いや解説も紹介します。



②『みんなのいえ』

作／たしろちさと
1,650円(文溪堂)
あわせて、廃屋が再生していく「未来」を描いた物語を。家や暮らし、時の流れにさまざまな思いが巡ります。



12月 テーマ：思うこと・祈ること

①『おだんごスープ』

文／角野栄子
絵／市川里美
1,540円(偕成社)
冬に読みたい心あたたまるおはなし。歌いながらスープをつくるおじいさんの心情、物語る絵もじっくりと味わいましょう。



②『きょうというひ』

作／荒井良二
1,540円(BL出版)
「きょうというひの ちいさな いのりが きえないように……」。雪の夜、あなたはどんなことを祈りますか。クリスマスにもおすすめです。



(豊嶋さおり)

プログラム (各 10～15分) 小学校中学年

10月 テーマ：一緒に生きている

①『いもさいばん』

文／きむらゆういち
絵／たじまゆきひこ
1,870円(講談社)
収穫の秋にさつまいもどろぼうとの対決かと思いきや、深い問いになりました。画面が縦になるところはスムーズに変えられるように。



②『こうして、ともに いきている』

作／多屋光孫
1,860円(汐文社)
動物たちはともに生きるための知恵を持っています。動物を見習いたいな、と前向きな気持ちになってもらいたいと思います。



③『いっしょだよ』

写真・文／小寺卓矢
1,760円(アリス館)
2冊の絵本で考えさせられましたが、最後は一緒にいいな、うれしいなと感じることでしょう。



11月 テーマ：お仕事変えたよ

①『すてきな 三にんぐみ』

作／トミー・アンゲラー
訳／いまえよしと
1,320円(偕成社)
どろぼう3人組が仕事を変えたきっかけは女の子のひとことでした。新しい仕事は孤児たちの村づくり。なんとも心あたたまる展開です。



②『おたからパン』

作／真珠まりこ
1,320円(ひさかたチャイルド)
こちらのどろぼうも親方の言葉でパンづくりを始めます。一生懸命さが伝わる繰り返しを大切に読んでください。歌うところは自由に。



12月 テーマ：サンタさんにプレゼント

①『クリスマスには おくりもの』

作／五味太郎
1,650円(絵本館)
贈りものを無邪気に喜ぶサンタさんを、楽しく読みましょう。



②『はじめてのクリスマス』

文／マック・バーネット
絵／シドニー・スミス
訳／なかがわひろ
1,760円(偕成社)
サンタのうれしい気持ちが伝わるように読みます。言葉のないページも、あたたかくやさしい絵をゆっくり味わってもらいたいですね。



(粟生真弓)

プログラム (各 10～15分) 小学校低学年

10月 テーマ：空を見上げてみよう

①『おつきさま こっちむいて』

文／片山令子 絵／片山 健
1,100円(福音館書店)
お月さまがきれいに見える季節になりました。お月さまとお話したことはありますか。



②『もし きみが 月だったら』

文／ローラ・バーディ・サラス
絵／ジェイミー・キム 訳／木坂 涼
品切れ中(光村教育図書)
月のこと、どれくらい知っているかな？空で光っているだけじゃないんだよ。



③『星につたえて』

文／安東みきえ 絵／吉田尚令
1,650円(アリス館)
ずっと昔から、広い空や深い海がありました。誰かに伝えたかった言葉は何だったのでしょうか。



11月 テーマ：秋風に吹かれよう

①『おちば』

文／おーなり由子 絵／はたこうしろう
1,650円(ほるぷ出版)
落ち葉がいつばいの秋です。お友だちになって、遊びましょう。落ち葉のお風呂ってあったかいんですよ。



②『とんでいく』

作／風木一人 絵／岡崎 立
990円(福音館書店)
前からも後ろからも読める本です。「タカ」と「ガンのこ」が、絵本を往復します。



③『ハシビロコウのはっちゃん』

作／よしだあつこ 絵／マツダユカ
品切れ中(鈴木出版)
じ〜っと動かないハシビロコウのはっちゃん。いったい何をしているのかな。



12月 テーマ：ときどきわくわくしてみよう

①『サンタクロースっているの？ ほんとうのことをおしえてください』

絵・訳／いもとようこ
文／フランシス・P・チャーチ(ニューヨーク・サン社説)
1,540円(金の星社)
100年前、アメリカの新聞社に届いた8歳の女の子からの質問のお手紙。その答えが社説に載りました。答えを知りたいですね。



②『はじめてのオーケストラ』

原作／佐渡 裕 絵／はたこうしろう
1,650円(小学館)
手でさわれない、目に見えないものを、もうひとつ。音楽です。コンサートにご招待いたしましょう。時間があつたら、あとがきもどうぞ。



(高木佳世子)



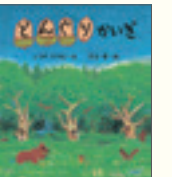
対象別おはなし会のプログラムです。
ここで紹介する絵本や紙芝居は、
ご家庭での読みきかせにもおすすめです。
ブックガイドとしてもご活用ください。

行事絵本・季節の絵本

秋・実り

『どんぐりかいぎ』

文／こうやすむ 絵／片山 健
1,320円(福音館書店)
森のどんぐりは、動物たちに食べられても、食べ残しが春に芽を出します。昔々、動物たちに食べつくされてしまったとき、どんぐりたちは会議を開きました。



本・読書

『ねえ、ほんよんで!』

作・絵／レイン・マローウ 訳／福本友美子
1,650円(徳間書店)
かめくんは何をするのも、ゆっくり、じっくりで、友だちのうさぎくんは、いつもせかせかしています。ある日、うさぎくんに頼まれて、かめくんが本を読み始めました。



紙芝居

『いもほりチャンピオン』

脚本／すとうあさえ 絵／岡本よしろう
1,650円(童心社)
たぬきはあちゃん、いもほりをしています。「ほってもほっても終わらない。だれか手伝ってくれないかしら?」と思っていると、くまんとうさぎちゃんがやってきました。



紙芝居

『たのしいクリスマスのじゅんび』

作・絵／たんじあきこ
1,815円(教育画劇)
ユイちゃんが友だちと一緒に、クリスマスの準備を始めました。ツリーにするモミの木を運んで、次はケーキを焼きます。準備は順調に進むでしょうか?



紙芝居

『つるのおんがえし』

脚本／坪田譲治 絵／松成真理子
2,090円(童心社)
寒い雪の日、おじいさんがワナにかかっていたツルを助けてやると、その晩、若い娘が家にやってきました。そして、部屋にこもり、美しい布を織りあげたのです。



(安富ゆかり)

読みきかせ・おはなし会 用語事典

「おはなし会」の打ち合わせで、何げなく飛び交っているあの言葉ってどんな意味？前号に続き、今さら聞けない「おはなし会」用語・後編を五十音順に解説します。肩の力を抜いてお楽しみください。

イラスト／ヨシタケシンスケ



著作権保護コンテンツ

の許諾が必要ですが、以下の場合には例外的に無許可で利用することができます。①私的使用のための複製、②図書館等における複製、③学校その他の教育機関における複製、④点字による複製、⑤視覚障害者用録音、⑥非営利の上演等、⑦引用。①から⑤は、例外的に複製できる場合です。⑥の「非営利の上演等」には、入場無料で、語り手に報酬が支払われないおはなし会が含まれます。ただ、こうした場合でも、著作物を変形したり翻案したりして使用する場合は許諾が必要です。詳しくは「日本書籍出版協会」のサイトで確認を。

て

てあそび「手遊び」

手や指、腕などを、リズムやメロディに合わせて動かす遊び。道具を使わずに手軽にでき、おはなし会で聞き手を集中させるときにも、リラックスさせるときにも使えます。

ていばんえほん「定番絵本」

長年にわたり読者に愛され続けている絵本のこと。出版取次会社のトーハンが、累計100万部以上売れている絵本をリストアップした「ミリオンぶっく2025年版」によると、日本で発行されている絵本で最も売れているのは757万部超えの『いないいないばあ』（作／松谷みよ子、絵／瀬川康男 童心社）。次いで売れているのは569万部

超えの『ぐりとぐら』（作／なかがわりえこ、やまわきゆりこ 福音館書店）。これらは、定番中の定番絵本といえます。

てぶくろにんぎょう「手袋人形」

手袋でつくる指人形のこと。手袋を裏返したり結んだりした単純なものでも、独特のかわいらしさがあったかさが表現でき、おはなし会でも人気者です。普段使っている手袋が、目の前で人形に変身すれば、むずかる子どももニコニコになります。指先にアップリケを縫いつけたり、顔を描いたりした凝ったものもあります。

てんじえほん「点字絵本」

目の見える人も不自由な人も、一緒に楽しめるように工夫された絵本。透明のビニールシートに文章を点訳して貼りつけたものや、絵や文字を隆起印刷して触って楽しめるようにしたものなどがあります。（本誌100号特集P16、22で紹介）

でんせつ「伝説」

ある特定の時代と場所、人物と深く結びついて起きたと信じられ、語り伝えられてきたおはなし。不思議な力を持った人物のことを語り伝えた『英雄伝説』や、地名の由緒を説明した『地名伝説』などがあります。同じように口伝えて伝承されてきた「昔ばなし」と比較すると、昔ばなしは時代・場所・人物を特定して

た

たいしょうねんれい「対象年齢」

絵本や児童書が読者として想定している年齢のこと。絵本の裏表紙に「〇歳から」と書いてあるのがそれです。対象年齢は、あくまで目安です。子どもには、成長のスピードや好みの違いがあり、実年齢と表示された対象年齢が合わない本に興味を持つこともしばしばあります。だからといって、その興味を妨げるべきではありません。また、本には理解できる下限の年齢はあっても、楽しめる上限の年齢はありません。対象年齢を「〇歳から」と表示することが多いのは、そうした理由からです。

だんたいかしだし「団体貸出」

公立図書館などで、地域で読書普及活動を行う団体やグループに、図書の貸し出しを行う制度。貸し出し冊数や期間などで、個人貸出よりも優遇される場合が多くあります。団体貸出の対象に、各学校の学級単位や保育園などを含む場合もあります。また、団体貸出のほかに、小規模なグループを対象に、グループ貸出制度を設けている図書館もあります。

ち

ちいきぶんこ「地域文庫」

子どもが本に親しみ、読む楽しさを体験できるよう、地域の施設で読

いないのに対し、伝説はそのどれをも特定しています。また、昔ばなしは端から信じさせようとしていないのに対し、伝説はその内容を信じさせようとしているのも特徴です。

と

とうきょうこどもとしょかん

「東京子ども図書館」

子どもの本と読書を専門とする、私立図書館。1950年代から60年代にかけて、東京都内で始められた4つの家庭文庫を母体として、74年に財団法人として発足しました。99年には、東京都中野区に現在の建物が完成し、2010年には公益財団法人になりました。子どもたちへの本の貸し出しやおはなし会開催のほか、「子どもと本の世界で働くおとな」のために、資料室の運営、出版、人材育成などを行っています。また、石井桃子さんのかつら文庫の運営も引き継いでいます。24年には50周年を迎え、公益財団法人伊藤忠記念財団との協働事業として、『子どものための文庫の手引き』を刊行したほか、大規模な



ちよさくけん「著作権」

みきかせや子どもの本の貸し出しなどを行っている市民活動のこと。同じ活動を個人宅で行っているところは、「家庭文庫」と呼ばれています。この文庫活動をする人たちをつなぐ「親子読書地域文庫全国連絡会」（略称：親地連）という団体が、1970年から活動しています。（本誌100号特集P6～9で紹介）

文芸、音楽、絵画などの著作物に付随するさまざまな権利が、それぞれの著作権者のものであることを認めたもの。著作権者とは、多くの場合作者のことですが、作者が亡くなったときには遺族などが著作権を引き継ぐことがあります。日本人の場合、作者の死後70年経過すれば国民の財産とされ、無許可で使うことができます。団体名義の著作物は、公表後70年で同様になります。海外著作物も、日本の著作物と同様に扱われますが、原作者のほかに、翻訳者の二次的著作権がある場合が多いので注意しましょう。おはなし会などで著作物を利用するときには、著作権者



施設改修のためにクラウドファンディングを行い、26年2月にリニューアル・オープンしました。（本誌100号特集P11で紹介）

どうよう「童謡」

子どものためにつくられた歌。古くから、自然発生的に歌われてきた「わらべ歌」がありました。1918（大正7）年に鈴木三重吉が、「芸術味の豊かな歌を子どもたちに与えたい」と児童雑誌「赤い鳥」を創刊して、創作童謡の普及に努めました。このころの代表作に「かなりや」（作詞／西條八十、作曲／成田為三）があります。第2次世界大戦後には、ベビーブームの影響もあり、童謡への関心が高まりました。52（昭和27）年に発表された「どうさん」（作詞／まど・みちお、作曲／團伊玖磨）や60（昭和35）年に発表された「犬のおまわりさん」（作詞／佐藤義美、作曲／大中恩）などは、現在も親しまれています。

どうわ「童話」

子どものためにつくられたおはなし。古くから伝えられたおとぎばなしや寓話のほかに、新しく創作さ

